

令和 7 年度家庭ごみ組成分析調査結果の概要

令和 7 年 8 月 23 日（土）及び 9 月 1 日（月）～ 6 日（土）の計 7 日間、地域特性及び住居形態を考慮した 15 地域程度を調査対象として、家庭ごみに含まれる資源化できるものの混入状況や可燃ごみと不燃ごみの分別状況を明らかにする「家庭ごみ組成分析調査」を実施し、プラスチック分別回収実施前後のごみの組成を比較しました。

1 調査結果

（1）可燃ごみ

①組成割合

可燃ごみの組成は、可燃物が 70.7%、資源物が 27.4%、不燃物が 0.7%、排出不適物が 0.1%、外袋が 1.1% です。可燃物の内訳は、生ごみが 33.2%（うち食品ロスが 7.1%）、容器包装プラスチック（汚れあり）が 3.0%、その他可燃物が 34.4% です。

②分別不適物の割合

分別が適正なものは 71.8%、不適正なものは 28.2% です。不適正なもの内訳は、資源物が 27.4%、不燃物が 0.7%、排出不適物が 0.1% です。資源物の内訳は、紙類が 13.1%、プラスチックが 10.5%、拠点回収品目が 3.3%、びん・缶・ペットボトルが 0.5% です。

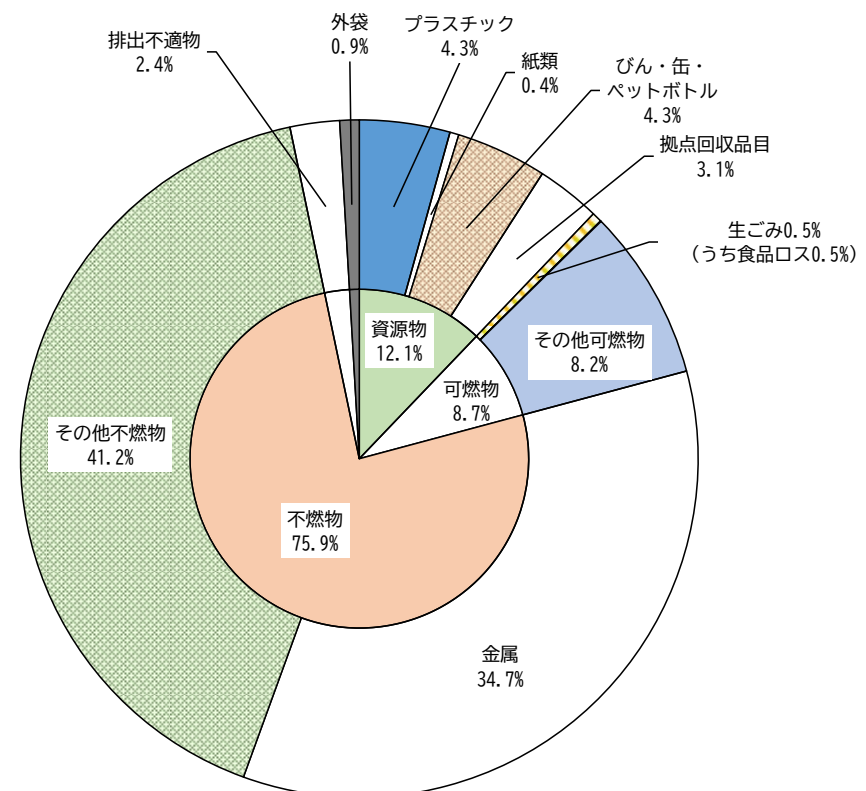
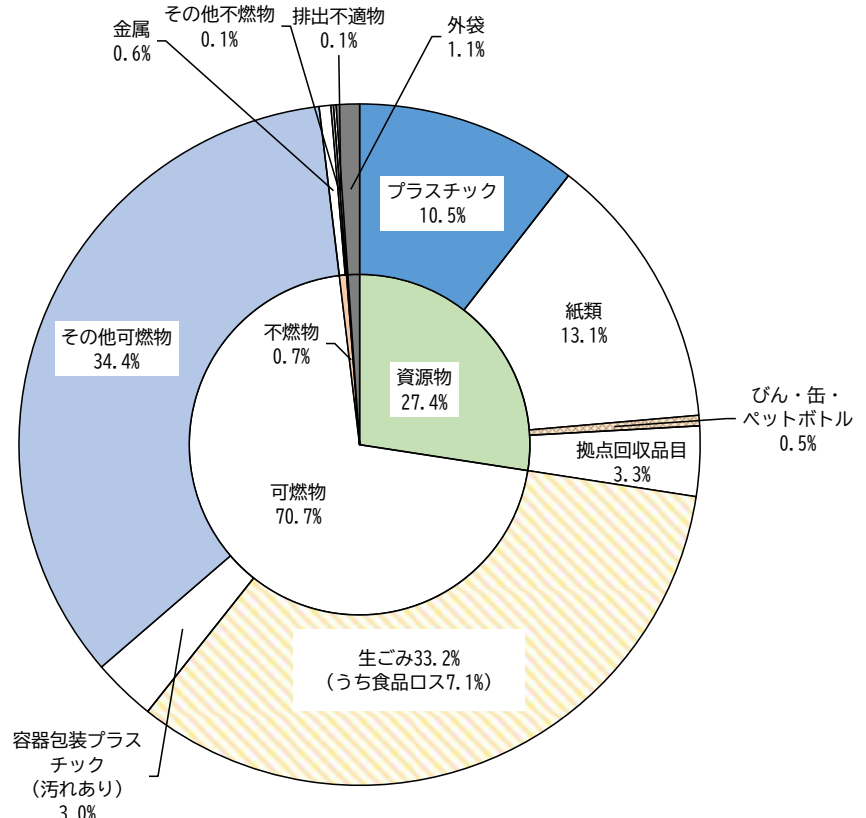
（2）不燃ごみ

①組成割合

不燃ごみの組成は、不燃物が 75.9%、資源物が 12.1%、可燃物が 8.7%、排出不適物が 2.4%、外袋が 0.9% です。

②分別不適物の割合

分別が適正なものは 76.8%、不適正なものは 23.2% です。不適正なもの内訳は、資源物が 12.1%、可燃物が 8.7%、排出不適物が 2.4% です。資源物の内訳は、プラスチックが 4.3%、びん・缶・ペットボトルが 4.3%、拠点回収品目が 3.1%、紙類が 0.4% です。

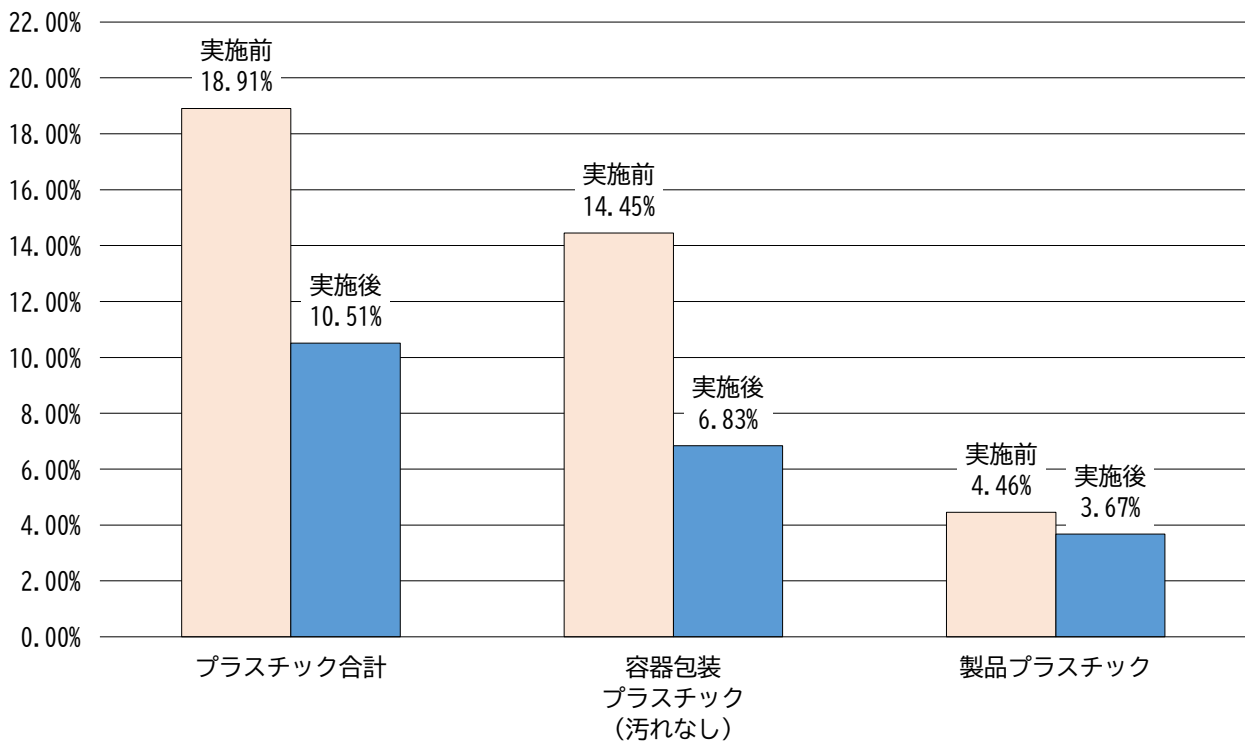


※端数処理（四捨五入）を行っているため、各項目の合算値と合計値が一致しないことがあります。

2 可燃ごみのプラスチック分別回収実施前後の比較

(1) 比較1

可燃ごみに含まれているプラスチック分別回収の対象となるプラスチックは、実施前18.91%から実施後10.51%へと8.40ポイント減少しました。



(2) 比較2

可燃ごみに含まれているプラスチック分別回収の対象となるプラスチックのうち、フィルム状の容器包装プラスチックが3.19ポイント、形のある容器包装プラスチックが3.17ポイント減少しました。

小分類		実施前 (令和6年度)	実施後 (本調査)	増減
容器包装プラスチック(汚れなし)	発泡スチロール製食品トレイ(白)	0.10%	0.06%	-0.04pt
	発泡スチロール製食品トレイ(柄)	0.16%	0.07%	-0.09pt
	プラスチック製ボトル	1.55%	0.93%	-0.62pt
	キャップ類	0.19%	0.15%	-0.05pt
	チューブ	0.16%	0.00%	-0.16pt
	レトルト	0.00%	0.00%	0.00pt
	形のある容器包装プラスチック	4.78%	1.61%	-3.17pt
	フィルム状の容器包装プラスチック	6.33%	3.14%	-3.19pt
	レジ袋(使用)	0.91%	0.72%	-0.19pt
	レジ袋(未使用)	0.26%	0.17%	-0.09pt
	小計	14.45%	6.83%	-7.62pt
製品プラスチック	シングルユースプラスチック	0.05%	0.04%	-0.01pt
	製品プラスチック(プラスチックのみ)	4.40%	3.63%	-0.77pt
	小計	4.46%	3.67%	-0.79pt
合計		18.91%	10.51%	-8.40pt

※端数処理(四捨五入)を行っているため、各項目の合算値と合計値が一致しないことがあります。